

# 研修報告書

2021年11月30日

古村英治

研 修 名	2021年度 JFA審判コーチング研修会
日 時	第1回 9月18日(土)、19日(日) 第2回 10月9日(土)、10日(日) 第3回 10月30日(土)、31日(日) 第4回 11月27日(土)、28日(日)
参 加 者	指導者 JFA 石山昇指導者部会長、木口寛 (宮城FA)、西野照美 (静岡FA) 受講者 伊藤真也 (北海道)、見付和昭 (東北)、新井智也 (関東)、宮川幸博 (北信越)、佐塚光 (東海)、角山勝洋 (関西)、古村 (中国)、藤井大助 (四国)、入部進也 (九州)
会場・場所	第3回のみJFAハウス。他は全てリモート。
研修内容	<p>第1回：「コーチングとは」 {審判員をコーチングすること} 「コーチとメンター、チューターの違い」 「審判コーチングで基本となるもの」</p> <p>第2回：講演「心理学的アプローチ」国立スポーツ科学センター 立谷泰久氏、「学習スタイル」「GROWモデル」「コーチングの会話をリードする」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>第3回：コーチング実践①「参加者どうしてシナリオに沿った演習」、コーチング実践②「東京都FAから参加した大学生～社会人、2～4級審判員を対象にした実践」</p> <p>第4回：「コーチングで実施するフィードバックの進め方」「リモートでのコーチング実践。岡山県から参加いただいた審判員 (岸本圭司S2、倉石一枝S2、阪田正大S3)」</p>
成果/感想	<p>この度は貴重な研修の機会を与えていただきありがとうございました。</p> <p>研修会前に「これからの審判員の指導に向けて」をビデオ視聴することから始まったコーチング研修会ですが、リモート形式で10時から16時までの長時間画面越しということ、内容の濃いもので新しい知識ということもあり、当初は大変でした。「コーチング」と「チュータリング」の違いの理解から始まり、県イントレでのチュータリングと混同しないよう戸惑いながら受講しました。</p> <p>コーチングとは学びたい人をサポートするもの、何を教えるかではなくどのように学ばせるか、審判員のマインドと行動を変えるものであると理解しています。</p> <p>第3回ではJFAハウスに受講者が集合 (2名は不参加) し、審判員と対面して実践する機会を得ました。実際にやってみるとコーチしているつもりがアドバイスになることが多々あり、反省の連続でした。</p> <p>最終となる第4回はリモートでの実践です。今では様々な活動がリモートで行われており、コーチングも同様です。その想定でやってみると目線が合わなかったり、内容を深掘りできなかったりとまだまだ出来ないことが多いと痛感しました。</p> <p>コーチングは実践しないと上達しません。第4回での実践をきっかけにして今後、どなたかと関わっていきながら今回の経験を錆びさせないようにしていきたいと思います。</p>
備 考	<p>JFAから受講後について、伝達講習の実施 (年間計画に組み込む、2022年後半までに、出来れば全10時間以上+実践) を依頼されました。CGFAでは9月から実施されていますが、自分も何らかの形で伝達したいと思うのですが、どのようにすべきかご指示いただけますと有難いです。</p> <div style="text-align: center;">  </div>